

# 議 事 録

目 的	第4回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年8月26日（金）19:00～21:00
-----	--------------------------

場 所	本庁2階 会議室
-----	----------

部 会 名	第5部会
-------	------

内 容	
-----	--

## ○出席者

委員：村瀬 晃健（部会長）、塩津 史子、民部 清宏、北村 清陽、（中村レイ：第1部会）  
中西 加津代（欠席）

市：木のまち推進課 内山課長、森本補佐、環境課 竹平課長、福屋補佐、水道部 尾上部長、高浜総務係長、建設課 上村課長、財政課 濱野主査、市長公室 濱口主任主事（事務局）

## ○主な協議等内容

- ・次回開催日 平成28年9月30日（金）19時～
- ・質疑応答 以下のとおり

進行：部会長 村瀬 晃健 氏

## ○質疑・意見

### 【重点的な取り組みについて】

委員：横断した観点とあるが、意味がわかにくいため、統一などの文言に変えた方がわかりやすい。子どもから生涯を通じた「おわせ人」とあるが、次世代を担う子供という表現などの方が良いと思うが、後にその言葉がでてくる。推進エンジンと位置づける。とあるが、推進発展、発展と位置づけるなどに変えた方がよいのではないか。推進エンジンも意味がわかりにくい。

委員：食のまちづくりを入れており、食という文字を随所に書いているが、具体的に何の食なのかなどを記載した方がよいのではないか。魚や料理名など、具体的に記載した方がわかりやすいのではないか。

委員：あれもこれもということでは入れにくいのはわかるが、食でというがもうちょっとはっきりした柱を打ち立てていくと良い。明確にするとありがたい。三重県も食で県を売っていく話があるが、それとのリンクも明確にするとありがたい。

委員：第6次総合計画の後期基本計画の期限を入れてもらいたい。また、食のまちづくり基本計画を、作成された平成27年ということを入れるとわかりやすい。『おわせ人づくり』は二重かっこだが、その後、「食」だけにかっこがついているので、「食」のまちづくりの外に『』をいれてもらおうとわかりやすいのではないか。下から5行目、食を共通項目と位置づけとあり、その下にも推進エンジンと位置づけと2回位置付けがでてくるため、整理してほしい。

委員：言葉が重複していることが気になった。裏面では、産業を支える人づくりで食をはじめとする商

品開発ということで、ブラッシュアップという言葉が、既存の特産品を新たに開発という意味なので使ってもよいのではないか。尾鷲応援団づくりでシティプロモーション※の※印は用語の前にもってきた方がよいのではないか。最後の尾鷲のファンづくりに取り組みます。とあるが、ファンづくりではなく、応援などの言葉の方がよいのではないか。

委員：食、食ばかり書いてあるので、林業のことは記載がないため、漁業なり、林業なりも付け加えてもらったほうがよいのではないか。

委員：食が柱として見てもらうのは飲食業界などとしては、ありがたいが、全体としていうと、尾鷲市全体を担う柱として、防災、漁業林業、産業、人づくりなど、色々あるので、もとの部分にそういった文言があるとわかりやすいのではないか。食を強調しすぎなのかもしれない。

委員：全部重要だが、包括的に食を中心に添えているということで記載していると理解できる。

委員：総合計画は何をしたいかよくわからないこともあるため、これと言って説明しにくいため、一般の人にもわかりやすいようにしてもらいたい。

#### 【各施策について】

##### ○511 森林の公益的機能の保全

委員：企業やボランティアなどの多様な主体という部分がなくなっているが、どういう風に理解したらよいか。

内山課長：前期総合計画策定時には企業が森林への参入が多かった。当時は、このような状況であったが、現在は収縮して収まってきたため、一度この部分を外して違う展開をしている。

委員：事業が完了したのか、完了しなかったのかもあるが、それを振り返りとして記載すれば良いのではないか。それとも一つ。現状と課題の○の3番目の森林教室の一番下に取り組みの森林学習ができる場を提供しますとあるが、森林教室と森林学習の違いはどのようなことか。

内山課長：森林教室が学校で説明すること、森林学習は実際に山に入って体験するという事で整理している。

委員：併せられないかと思った。上は課題として、実施しているが今後、やっていきたいということか。

内山課長：森林教室の方が回数としては多い。実際に山に行くことも回数を増やせれば良いと思っている。

委員：小学校高学年の子供たちがやってもらっている。

委員：森林学習をもっとやっていきたいということをわかりやすく書いてほしい。実際に山に行ってもらい、教育するのであれば、そこをうまく表現してもらいたい。

委員：前期総合計画では、※で森林の公益的機能が2行で記載されている。今回は丁寧に書いてもらっているが、どのようになるのか。

内山課長：公益的機能の説明書きとして、今回このように記載させてもらった。

委員：山は土地を持っている人と、木の所有者が別なのは尾鷲でも多々あるのか。

内山課長：貸し付け山があるが、山も木も市のものだが、それを貸している山も少しある。2haぐらいある。

委員：紀北町は個人や組合など多く、複雑になってきており、問題なども発生していると聞く。

内山課長：尾鷲市は件数も少なく、整理されてきている。

#### ○512 鳥獣害対策の推進

委員：他の課との連携でジビエを活用していくみたいなことは、課題や取り組みではでてこないのか。

内山課長：ジビエは質問などもあったが、檻に入った野生鳥獣しかだめで、銃は不可であり、檻のものも一時間以内に冷凍しなければならないという厳しい条件がある。量が少ないことや、需要が少ない。価格も高く買ってくれる人がいない。ジビエと比べると、牛、豚の方が安く味も良い。ジビエを進めていくのは検討はしたが、難しいという判断をしている。

委員：市で練ったのであれば、記載しておく方がよいのではないかと。ここに書いてないと話をしていないのかと思ってしまうこともある。今は難しいということを検討したと記載してはどうか。

委員：その意見は反対です。伊賀上野ではジビエをやっているが、尾鷲は漁業での食がある。鳥獣害対策となると、まずは被害となるため、どのようにサル、シカ、イノシシに入られないようにするかなど、パトロールをするなど、そのことをしっかり記載する方がよい。

内山課長：被害が増えているため、これについては、尾鷲猟友会の協力を得て、国の補助金も活用し、捕獲奨励金も増えている。これからも被害を少なくしていきたい。

委員：最後の項目で猟友会の高齢化はまったくそのとおりであり、その育成は切実だと思う。その辺りはしっかり書いてもらっている。よろしいのではないかと。

委員：ジビエなど、県の関係者と話し合いももったが、猟銃は駄目であるので、国の補助をもらってできないのか考えたが、1時間以内の冷蔵施設は難しい。ここではなく、産業の部会にその一文があればありがたいかなということがあるため、第3部会で検討してもらいたい。猟友会の高齢化の問題については、市の職員でやっていたり、地域おこし協力隊で募集している市町もある。その方向性も検討してはどうか。話し合いはしているか。

内山課長：参考にしていきたい。そういった部分もこれから必要になってくると考えている。

#### ○513 自然環境の保全

委員：県の大气測定のPM2.5の記事があったが、県との連携についてはどうか。

竹平課長：県の基準値をオーバーすれば市に連絡がくるなど、県とは連携しながらやっている。

委員：大気汚染や水質汚濁については、数値はどうなのか。

竹平課長：平成22年度の大気が90%だったのは、浮遊粒子状物質1項目がだめであったためである。水質でいえば尾鷲市の海域については、環境基準は良い。矢ノ川はAA類型の指定となっている。矢ノ川が動物由来の大腸菌の関係があつて、測定値はA類型程度となっている。測った時期にもよるが、動物や降雨に影響される部分もある。1項目でも数値が若干でも高ければAA類型の値にはならない。環境基準と比較するとA類型程度となっている。他の場所については、環境基準ではないが、下水道も水質を調べている。中川と林町の下水道はBOD値が高い。

委員：座の下の川でもリンが多い。動物が死んでいる。

尾上部長：水道部として、矢ノ川の水については、塩素消毒しており、水道にはまったく影響がない。

竹平課長：基準値は動物に影響されることがある。水質がどうかといえば水質は良い。

委員：100から100だが、維持していくということによいか。

竹平課長：水質の部分でいうと、山の動物に対しての対策はできない。それを基準にすることは難しい。下水道などはどの基準をもってするのが難しいため、数値を捉えるのは大気環境が一番わかりやすいということでこの基準としている。

委員：地下水、井戸を使っている環境があるが、その環境調査は行っているのか。

竹平課長：地下水は県がやっている。市独自ではやっていない。

委員：取組方針の再生可能エネルギーを導入するなどあるが、検討するなどであればわかるが、実際にあるのか。

竹平課長：導入自体は第三保育園に太陽光パネルと蓄電池を導入するため、施設で検討していく。

委員：もう導入しているということで導入すると記載しているのであればわかります。

#### ○521 資源循環型社会の推進

委員：ごみの有料化になる前、焼却炉の耐用年数について、焼却炉の痛みぐあいはどうか。

竹平課長：清掃工場の状態は、経年劣化しているので、優先順位をつけて修繕を進めるとともに、今後の延命化策をいま検討している。

委員：主な取組方針の一番下に広域ゴミ処理施設整備に向けてと記載しているが、断定的な書き方であるため、場所を断定できていないため、広域連携で取り組んでいきますといった表現の方がよいのではないか。

竹平課長：現在、用地の取得が一番難しい問題だが、広域で連携して施設整備を平成34年度の稼働開始を目指すということになっている。5市町で整備に向けて進み、どこかに出来上がる形で進めている。

高濱総務係長：施設を造るのは確かではないのか。

尾上部長：後期基本計画が概ね33年の計画だとすれば、33年の時点で取り組んでいる。今後、5年間で広域ゴミ処理施設を整備することは間違いはない。

委員：断定的なことではなく、緩くした方がよいのではないか。

委員：尾鷲市が候補地となっており、市長と対話した際にも、進めるという明確な答えが返ってくる。

竹平課長：土地がどこかは決まっていないが、広域ゴミ処理施設は進めなければならない。基本的にはそういった意味合いで書いている。効率的な運営を図るには、5市町でそれぞれの施設ではなく、広域で1つの施設という方針でやっている。そのことで広域ゴミ処理施設整備に向けて進めているという記載をしている。現在、基本的に5市町でやりましょうという意向のなかで、検討会議を進めている。

委員：そのためにはゴミの排出量を低くしないと、負担が多くなるため、少なくしていったらいい。

竹平課長：広域ゴミ処理施設整備は、整備に向けて各5市町で取り組むという合意がされたなかで会議がなされている。

### ○522 良好な生活環境の保全

委員：生活排水処理施設整備、下水ははいつているのか。単独浄化槽も合併浄化槽に変えていく形ということか。

竹平課長：尾鷲市では下水道処理ではなく、浄化槽の整備率をあげるとしている。生活排水処理整備率の向上をしていく。

委員：現状のなかに、宅地以外の部分について、周辺への環境配慮計画も道沿いの人に知らせる制度を作るみたいなことはないか。宅地以外の残土を余所からもってきて入れていることがあるらしいが、それについての、搬入環境配慮計画はあるのか。

竹平課長：搬入の土の調査は基本的に市ではしていない。搬入するための目的があるが、例えば港湾の土を持ってくる際には、そちらでの調査となる。残土の土に関連した報告も今までない。

内山課長：搬入に関しては、港湾であれば、港湾の調査報告書はあがってくる。土砂は土砂である。産業廃棄物は別だが。

### 531 安全・安心な水の確保

委員：地震などの大規模災害に備えた体制の整備が必要だとあるが、どのようなことか。

尾上部長：施設を耐震化したり、排水管など古くなったものを変えていくなど、地震で割れにくいものになっている。

委員：井戸の場所の把握はしているのか。災害時に飲むのではなくても、水の活用ができることを踏まえた想定はしているのか。生活用水として、利用ぐらいはできるのではないか。

尾上部長：水道事業としては、水道利用者に安全で安心な水を届けることをしているため、個人が所有している井戸の把握まではしていない。

委員：水道と井戸と両方あり、洗濯などは井戸、飲料水は水道を使っている。保険所などの検査は聞いていない。自分で検査申請をするのか。

尾上部長：水は塩素消毒をして送っている。井戸を使用すると管理がとても不可能となってしまう。

委員：水道施設の老朽化についてはどのようにしているのか。

尾上部長：40年の耐用年数などがあるが、継続して更新整備を繰り返している。

委員：水道配管台帳は間違いないと言われたが、整合性がとれていない、図面自体がない箇所もあると聞くため、見直しもしていくとすればよいのではないか。正しくない情報をデジタル化しても意味がないのではないか。敷設図の整合性があるものをデジタル化した方がよいのではないか。今あるもの見直す取り組みをすればよいのではないか。

尾上部長：今ある排水管台帳、整備更新した図面があるので、紙ベースのものをシステム化する際に、台帳に対してチェックもしていく。精査したうえで、正しいものをデジタル化していく。全て保管してある図面を確認してから進めていく。各市町同じことをやっている。やり方も確立されている。

委員：敷設されるときにはちゃんとした図面でやってもらおうとありがたい。

○532 都市づくりの推進

委員：地籍調査の進捗率はどのようになっているか。

上村課長：進捗率の数字は、今、手元にないが、県内で下から2番目ぐらいとなっている。尾鷲市は森林の割合が大きく、公図が整理されていないため、調査が難しい。市だけでは調査できないことがあるため、市民のみならずと協力しながら実施していくことになる。今後も順次進めていくが、長期的な取組が必要となる。

委員：地籍調査を行い、とあるが実際どのようなことをするのか。

上村課長：公図が整理されていない箇所について、登記簿上で名前がある方に集まって頂き、土地の境界などを確認・協議して頂いている。

委員：昔の公図は文字が小さくわかりにくい、境界をきっちりした方がよい。そういったところが多いのか。

上村課長：市道に接する所などから、確認・協議を進め、写真を撮るなどして、境界を確定していく。私有地同士の部分は市が関与できないこともあり、それらの箇所が残っていくこともある。

委員：尾鷲市は明治の時代の調査しかない。

上村課長：調査の状況としては、県が道路事業を検討している所を優先して調査している。自分の土地がどこにあるかわからない人もおり、問題が出てきている。最終的には、周囲は決まるが、その中で境界が不明な箇所も出てくる。

委員：総合評価書で前期の振り返りをしており、事業2の道の駅事業については、進んでいないとあるが、まず、道の駅の基本計画が策定されているが、それができているにも関わらず、できていないという評価はなぜされたのか。

濱口主任主事：道の駅については、現在どのようにするのか検討中である。

委員：後期に向けた提案にも今後は事業推進が求められていると書かれている。なぜ反映されていないのか。審議員からも意見がでている。それも反映されていない。振り返りをして改善していくとしているため、これを載せないのはおかしい。推進していくべきことであるので、広域ごみの施設整備と同じことだと思う。道の駅整備については、場所まで決めたのになくなっていくのは納得できない。

濱口主任主事：それぞれの意見があると思うが、現状としては、3月議会で予算計上されたなかで、議会の了解を得られなかったため、市でできる部分がどうなのか、どのように進めていくのか、基本計画策定時と現状と変わってきていることがあるため、それらを検討している。

委員：議会では、予算がなくても、市の職員ですと市長が明言しているため、それを検討しているというのはおかしい。

委員：それは議会が反対しているから、市としてはしたいが、できない状況ということではないのか。

委員：推進していくということで市長が言っているのに、検討しているというのはおかしい。

濱口主任主事：防災拠点や方向性について、道の駅としてどう進めていくのかということを検討しており、その結果を受けて、総合計画にどのように載せるのかを検討している。

委員：議会は道の駅自体を拒否したのか、その予算を否定したのか。

濱口主任主事：予算が議決されなかった。

委員：予算がなくてもやると言っているのなら、今まで進んできた方向で進むのが筋ではないか。

濱口主任主事：道の駅として事業を検討している。結論を総合計画にどのように反映させるのか、後日、回答させていただくので、持ち帰らせていただく。

高濱総務係長：予算が否決されているので、入れる必要があるのか。

委員：市長がこれを公約として掲げている。今までやってきてここで書かないのは非常におかしい。

高濱総務係長：現状はそうである。

委員：それなら市長をつれてきて、ここでやめると言えば納得はできるが、おかしい。

尾上部長：納得していただける結論になるかわからないが、5回目の審議会に回答をすることでよいのではないかと。

委員：議会に予算は通らなかったが、道の駅自体は反対ではないということ、市長は市の職員でやったということ、今までやってきているので、そのままやってもらいたい。来年の6月までにコロコロ替えると納得できない。

濱口主任主事：道の駅の議論はしているので、その結果を総合計画にどのようにするのかを回答したい。

委員：防災拠点として必要という人もいるし、そうではないという意見もある。市民であっても個々の意見がある。

委員：都市づくりの面でいうと道の駅もあるが、港の方の道の駅的なものが国の計画であると聞いた。津に空港から来るフェリー乗り場があるが、鳥羽にも造るといった港の構想があると聞くが、尾鷲市の港で観光集客面も含めた都市づくりの計画はあるか。

上村課長：食のまちづくり基本計画のなかで、尾鷲港付近を中心とした拠点を検討したいとしている。港湾整備は県であるため、県ともそれに関連した打合せを実施しているが、まちづくりという観点から、市としてどう考えるかが明確になってこない、港湾整備は難しい。その辺りを検討していきたい。

委員：重点道の駅候補のなかに、海と南インターと小原野の旧尾鷲工業高校を結ぶというラインで、ヘリポートと書かれている。海からも、高規格道路と結んでやっていくということを書いており、これが重点道の駅候補に選ばれた理由だと思う。道の駅を物品販売だけ、防災だけと思っている人もいる。そうではなく、この地域にとって通過点にならない、唯一の生き残りだと思っている。道の駅について、是非入れていってほしい。長期的な視野に立って。予算云々ではなく、議会がなんと言ったってひよらずに進めていっていただきたいという思いである。

濱口主任主事：そのように伝えさせていただく。

委員：市長に伝えてください。

### ○533 災害に強い都市施設の推進

委員：市営住宅の適正な統廃合ということで、老朽化して危険なものについて維持管理がかかるため、適正な運営管理のなかに入ると思うが、それもしていただきたい。中長期的な財政プログラムを作成しなければならないと思うが、市の庁舎を優先するというのをに入れてほしい。庁舎は心

臓には違いないため、財政的な大変なことはわかっているが、明文化してもらえるとありがたい。

上村課長：市営住宅は約280戸あるが、その内、約120戸は老朽化等が進んでいるため、今後、利用が無くなれば、使用を止めようと考えている。よって、今後は、残りの約160戸の住宅を中心に適正管理に努めたいと考えている。2番目の話は大きな話になるので、この施策の指標にもなっているが、市としてどう進めていくのかはもう少し検討させて頂きたい。市として明記したい部分もあるが、難しい部分がある。

委員：例えばPFIや上層部をマンションで貸し出し、下を庁舎として利用することなど、色々な手法を考えてもらって、手遅れにならないようにしていただきたい。

上村課長：総務課も交えて色々な手法を検討している。その中で進めていかないといけないと考えている。

委員：市営住宅で坂場の奥も倒れていきそうになっている。老朽化が進んでいる。

委員：全員が出られたところは取壊したこともあるが、なかなか住んでいる方が転居替えもできない。市営住宅を立て直すのにもお金がかかる。統廃合も含めて都市計画の中で、新たな別の委員会を立ち上げて検討もされるのかもしれないが、お金がかかることでもあるため、検討をよろしく願いたい。

委員：災害に強い都市で、第1部会で市民による防災ということである。それとの兼ね合いは精査してもらいたい。それぞれで別のことを言ってもだめである。

上村課長：精査させて頂く。

委員：全体での意見の調整はどのようにするのか。

濱口主任主事：次回、第5回の部会で1時間を各部会、残り1時間を全体会として開催予定である。

委員：特に防災のことで気になることもある。

#### ○534 公共交通の確保

委員：須賀利地区のことは記載しないのか。

濱口主任主事：全体の交通の意味合いを記載しており、各地区個別のことまでは記載していない。

委員：難しいが、紀北町と連携をとってやっていってほしい。

濱口主任主事：須賀利地区の市政懇談会でも意見がでている。三重交通の島勝線が走っているため、路線が競合すると運輸局の許可が降りないため、難しい部分があるが、飛び地という特別な条件であることから、色々な方向性を探ってやっていくように進めている。

委員：そのような声があり、必要とされているため、対応してほしい。